（別紙4）　　平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	21733000043		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス宮川		
所在地	飛騨市宮川町巣之内63		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	平成25年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2173300043-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	平成25年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、利用者がそれ迄暮らしていた地域の延長線上にあり、素晴らしい自然環境の中で落ち着いた生活が出来るようになっています。職員は利用者1人ひとりが持っている能力を大切にし、その人らしく自立した生活が送れるよう支援しています。午前と午後15～20分程度、体操の時間を設け筋力の保持、増進に努めています。更に職員の創意工夫によりドリルを作成したり、手芸、レクを取り入れ脳の活性化を促しています。又、今年度から舌や顔の体操を取り入れ、口腔機能の向上に努めている。更に、家族、ボランテァの方に呼びかけ安全に外出や行事が出来るよう協力依頼に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、環境省から「かおり風景百選」に選ばれた、種蔵棚田がすぐ近くにある。利用者は、豊かな自然環境の中で、生き生きと自立した生活を送っている。それを支えるために、個々の能力や身体機能の維持向上ができるように、リハビリ体操を日課とし、脳の活性化にも創意工夫をこらしている。管理者・職員の努力の成果は、介護度判定の下位認定となり、職員のやりがいと自信につながっている。今年度より、舌と顔体操を取り入れ、口腔機能を高める支援を行っている。職員の内部学習に重点を置き、全職員で自己評価を行うなど、質の高い事業運営を行っている。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生まれ育った地域や、思い出を大切にして、利用者が持っている能力を引き出し、事業所の理念の元、毎日の介護の中でその人らしい生活が出来るよう支援している。	利用者が生まれ育った地域のなかで、その人らしく穏やかな生活が送れるように支援をしている。利用者が持っている能力を引き出し、身体機能の維持・改善に努めながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事を見物したり、施設の行事に地域の人々を招いたりして交流をしているが、機会は少なく、まだ地域の一員としての交流までには至っていない。	町内の小学校行事に出かけたり、小学生を招いている。地域の敬老会や祭りなどの行事にも参加し、前庭にあるゲートボール場で、高齢者グループと交流している。また、庭の整備や草刈りの援助がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々のケアの中で認知症の方々への支援に関しては実践をつんできているが、その実践経験を地域に還元できるまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には家族、行政機関、駐在所、消防署、民生委員、地元の方々に出席していただき活動報告や、活発な意見をいただきながらその意見を日々のサービスに活かしている。	会議は、定期に開催し、活発な意見を交わしている。活動報告を行い、医療や終末期の課題、外出支援などの意見を検討し、サービスの改善や運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護担当者、その他の公的機関（駐在所、消防署等）との相互の連絡は密に取り、協力関係の構築には努めており、連携は深化している。	市の担当者が、毎回運営推進会議に出席した際、事業所の実情を伝えている。困難事例は、その都度相談をしている。災害時の避難場所の指定や、利用者の安否確認体制で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行わないという共通認識を持ち日々のケアに努めている。又、一方では個々の身体能力の向上や、環境整備等で拘束の必要のない状況をつくり出している。	身体拘束をしないケアを行っている。安全上、不安な場合でも、職員間で工夫し、拘束の必要がないように対処している。玄関の自由な出入りを見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者を初めスタッフ一同は、日々のケアの中でつどつど虐待に当たるケアがないか話し合い、改善することがあれば改善し、見過ごされ無いよう、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、この件に関して利用者の中で必要性のある方は居ませんが、今後、必要性が出ないとも限りませんので、機会があれば学習の場を設けたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項、運営規定等を納得いくまで説明し、不安や疑問の解消に努めている。改定、契約時にも同様、懇切丁寧に説明し不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会や、会議の時などに家族の要望意見などを伺ったり、あるいは、食事会、懇親会、アンケートなどを通じて、幅広く意見を伺い施設の運営に反映できるよう努めている。	家族の面会時や懇親会などに来てもらい、意見・要望を聴いている。終末期対応や利用料金、通院受診などで話し合っている。意見等は、できるものから運営に反映させている。	利用者の、その人らしい生活を支えるためには、家族の協力が欠かせない。そのための理解と、協力が得られるような取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や日々のスタッフミーティングなどで意見交換をおこなっているが、ケアに関する事が多く、運営に関する事は少ない。仮に意見が出てもまだ反映されるケースは少ない。	定例の会議で、意見や提案を話し合っている。利用者の機能向上の事例検討や外出企画、職員のメンタルケアについて意見を検討している。それらは、改善と行動計画に反映させている。	職員の心理的負担の軽減について検討し、より良い、職場環境の改善に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の就業希望を考慮したシフトが組まれ、職員同士はよくコミュニケーションがとれており働きやすい職場環境になっていますが、給与水準等は、今後の検討課題と捉えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修には努めているが、職員育成を含めまだ不十分である。又、外部研修も、時間、距離的にも問題が多い。管理者は日々の介護の中で個々の介護力の把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互交流、相互訪問などを通じてサービスの向上を図りたいが、地理的な点もあり充分機能していない。今後の課題として捉えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の種々の情報や、体験入所などを通じて本人の要望、不安なことを把握市、正式入所の段階で不安の解消、要望が受け入れられるサービスが提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係も同様、入所前に種々の情報を捉え、家族が困っている事、不安、要望等を聞き取り、サービスを導入する段階である程度不安が解消出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にあたっては本人、家族、前任ケアマネージャなどから情報をえて、その時点で、一番「何が必要か？」を見極め、必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と同じ目線で対応し、その人の「人となり、指向」を把握し、スタッフ間で意見交換をして、共通認識のもと支援するようつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最初は手探り状態であるが、粘り強く利用者と関わり、一緒に過ごす時間を多く持ち、家族と意見交換しながら、支援する立場としての関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する機会は限られているが、家族やボランティアの協力を得、地元の温泉施設、行事等に参加している。馴染みの人に会ったりして地域との関係が途切れないよう努めている。	地域の温泉施設や行事、買い物等に出かけ、馴染みの関係を続けている。和紙工房やバラ園、地歌舞伎など、思い出の場所へも出かけている。顔見知りの理容師が、定期に訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人、悪い人、利用者同士の人間関係に注意を払い、時にはスタッフがクション役になり、利用者同士が支えあい、助け合える良い関係が出来るよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は関わりは少なくなるが、利用者が他施設等へ移る時は、受け入れ施設の担当者の訪問を受け入れ、細部に渡って検討しケアの継続性に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、1人ひとりの思いや意向をくみ取り、希望に添えるように努めている。自己表現の難しい人には、問いかけを多くし、表情、行動を観察市、本人本位に検討する。	日々の会話や表情から思いを把握している。把握の難しい人は、行動を観察して汲み取っている。個々の思いを受け止め、寄り添いながら、その人らしく暮らせるように対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の介護の中で、本人の生活暦、暮らし方家族の事などを聞き出したり、あるいはケアマジャー、家族などから過去のサービス状況などを聞き出すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中から、1人ひとりの様子、過ごし方、きずき等を記入、把握し全スタッフが共有できるようにしている。更に、その積み重ねから、残存能力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望、意向を取り入れ、日々の生活振りを観察しながら介護計画を作成している。担当者を決め、毎月モニタリングを行い課題を検討しチームケアに努めている。	本人・家族の意向を聴き、職員の気づきやアイディアを計画に取り入れている。サービスの経過記録や評価表を検討し、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、随時、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、きずきや工夫を経過記録、あるいは個人ノートに記入し変化や、気になるところがある場合は協議し、情報の共有化と見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化は困難な面もありますが、本人家族の状況に応じ通院の送迎、外出等に柔軟に対応している。又、出張理容、出張歯科診療などを行いニーズに対応できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の統合以来、中学生との関わりは少なくなっているが、演芸、音楽等地域ボランティアは多くなっている。図書館を活用し絵本紙芝居等で楽しみを増やすよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の承諾を得て、施設の協力医に変更してもらい、月2回の訪問診察を受ける体制をとっている。急変時には、協力医と連携を取り、情報を提供し、円滑な受診、入院が出来るよう支援している。	全員が、かかりつけ医を協力医に変えている。協力医とは、月に2回の訪問診療と24時間の連絡体制を取っている。急変時は、円滑に受診、入院できるように連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中で捉えた情報、きずきを看護職に報告し、一人ひとりの利用者が適切な受診や看護を受けられるよう協力し合って支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院じには、介護情報を提供市、蜜に情報を交換しながら安心して治療ができ、且つ、早期に退院が出来るよう支援している。又、退院時にはサマリーを頂くなど日常的に病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、看取りはできない旨の了解は得ている。重度化や終末期に至る過程のケアについては事業所でできる範囲を説明し、家族や関係者、医療機関の協力を得ながら取り組む努力をしている。	重度化により、ホームでの生活が困難になれば、他の機関へ移転することを方針として、本人・家族に説明をしている。入居時に、特別養護老人ホームへの入所申請することを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時対応マニュアル以外に今年は発生後の対応マニュアルを作成した。介護の一連の流れの中で、応急手当、初期対応が出来るよう実践力の向上につとめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震等の対応を職員で協議し、対応マニュアルに沿って訓練を重ねている。夜間の召集訓練も、職員、家族の協力を得て実施しいるが、地域の協力体制はまだ、不十分です。	消防署の協力を得て、定期的に災害訓練を行っている。夜間想定や避難誘導、初期消火、通報などを実施し、マニュアルも整備している。市から地域の避難場所として、指定を受けている。備蓄品の数量は、検討を重ねている。	過疎地のため、自助の体制強化と、市によるハザードマップ策定が遅れているので、その進展に期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者１人ひとりの残存能力、身体のハンデイなどをしっかり確認し、その人その人の人格、誇りやプライバシーを損ねない対応をするよう気をつけている。	失敗を責めたり、命令しないように対応をしている。話や訴えをよく聴き、安心感を与えるように接している。また、認知症安心ケア10ヶ条を掲げ、全職員で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを口に出せない利用者も多いので共に過ごす時間を大切にし、話しやすい雰囲気作り、言葉掛けに気をつけている。職員は答えを誘導するのではなく、上手に聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活のルールを守っていく中で、その人らしい暮らしが出来るよう、１人ひとりの体調にあわせ、心にゆとりを持つ生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあわせて衣替えをしたり、その時期にあった服装ができているか、本人と相談しながら、身だしなみを整え、自分らしさが出せるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で摂れた野菜や、職員の家で摂れた野菜など旬の食材を積極的に取り入れ、利用者ともども調理し季節感を味わっている。時には、野外で食べたり外食を楽しんでいる。	食材は、自家栽培の野菜や職員からも提供を受けている。また、豊富な山菜も食卓を彩っている。利用者は、準備や片付けを担い、職員と一緒に食事をしながら、楽しい会話を交わしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された献立に基ずき栄養バランスは取れている。水分補給には特に気をつけており、食事時、10時、15時、入浴前後と摂取しており、更に、睡眠時にも各自、ペットボトルにお茶を入れ、持参してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し就寝前には入歯を洗浄し、清潔保持に努めている。自力で出来ない人には、声掛けし一緒におこなっている。出張歯科診療で、清潔保持にも努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	大部分の利用者は、トイレで排泄ができますが、うまく出来ない人には、時間を見計らい誘導し、排泄の失敗や、オムツの使用の減少に努めている。自力で出来ない人にはポータ排泄を行っています。	トイレで排泄できる自立の人が多く、身体機能の維持向上に取り組んでいる。困難な人は、こまめに誘導したり、ポータブルトイレを活用している。個々に合ったパッドを選択して、おむつの軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に悩んでいる方は多いが、水分補給や運動などで改善したり、あるいは、排泄習慣の改善に困難な方には下剤の量を随時、調整しながら排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で、利用者1人ひとりの体調、要望に合わせ、保清を保ちゆとりを持ち、ゆったり入浴できるよう支援している。利用者の安全を最優先に考え、全介助の人、見守りの人と、大切な時間を過ごしてもらっている。	週に2回の入浴を、体調に合わせて支援をしている。風呂好きの人ばかりなので、安全で、ゆったり楽しく入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転する事が無いように、昼間時は出来るだけ体を動かし、覚醒状態を保ち自然なリズムができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬の一覧表を作り、1人ひとりの薬が分かる様にし、処方箋は効用や副作用、用量を職員全員がしっかり理解できるようファイルにしている。変更、留意点については往診の一とを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人ひとりの好きな事、出来ることをお願いし、生きがいを持った生活が出来るよう支援している。自室の掃除等を行って、役割に、生きがいを持つ例も出ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援として施設の周辺を散歩したり、テント内でのお茶を楽しんでいる。交通手段に限りがあるので、遠出は年に2～3回程度であるが、全て全員参加であり、時には家族の参加も頂いている。	周辺を、日常的に散策し、地元の祭りや小学校の行事などへも出かけている。遠方へは、家族やボランティアの協力を得て、出かけている。今後も、多くのボランティアに、参加が得られるように働きかけている。	利用者の外出を、さらに豊かに支援できるように、ボランティアのネットワークづくりに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多くの方は、個人的にお金は所持していない「預かり金」として事務所が管理し、施設の行事として、買い物などに出かけた時に欲しいものが買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部との連絡には、事務所の電話を利用しているが、こちらから直接電話を掛けることは殆どない。家族、外部との連絡は職員が取りついでいる。手紙のやり取りも殆どない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーはゆったりと、落ち着く場所としていつでも使える様にしています。金魚の水槽を置いたり、個人の作品、行事の写真を貼ったり、季節の花を飾ったりして、気持ちが安らぎ、落ち着いた生活が出来るよう努めている	玄関や居間には、鉢植えや季節の花を生けている。壁には、貼り絵や刺し子などの利用者の作品、写真集や和紙の書き物を飾り、生活感がある。窓越しに季節の風情を眺めながら、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	敷地内にテントを張ったり、ベンチを置いて1人で過ごしたり、気の合った人同士で寛ろげるスペースを作っている。それぞれが1人で、あるいは、気の合った人同士で思い思いに過ごしている。ホールも同様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部屋一部屋が利用者の家として、誰にも気を使う事なく過ごせるようにしている。部屋の整理整頓が充分出来ない人には、一緒に行い、快適に過ごせるように工夫している。	居室には、趣味の作品や思い出の品々を整理整頓し、自分の部屋と分かるようにしている。各部屋には、非常持ち出し袋に必要な情報を入れ、災害時に備え、安心できるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自立度にあわせて居室を選んでいる。建物内部は整理整頓を行い、移動と歩行の障害にならないよう気を配っている。手摺りをつけたり、柵を付け安全を確保している。		